

前立腺全摘除術パス 入院診療計画書

URY104

患者ID	主治医	病名	説明日
患者氏名	(性別) 担当医	管理栄養士	症状 <input type="checkbox"/> 事前検査による異常所見
生年月日:	(年齢) 看護師	特別な栄養管理の必要性	<input type="checkbox"/> 患部の自覚症状
病棟(病室)	薬剤師	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	(疼痛・血尿・頻尿・排尿困難・残尿感)

月日	入院日～前日	手術前
患者目標	不安なく手術を受けることができる	
治療 処置 注射 (内服)	現在使用している薬をすべて確認します(現在中止している薬も含む) 入院中に使用する薬について説明します アレルギーの有無等を確認します 手術前日に点滴の針を留置します 手術前日に下腹部から陰部にかけて除毛します 手術前々日の21時に下剤を内服します 手術前日の15時頃から下剤を2時間かけて内服します	朝の薬は 時 分 に()を 少量の水で内服します 6時頃から点滴を開始します
食事	常食(必要に応じて治療食)です 手術前日昼以降は食事を摂取することができません 水分(水・お茶のみ)は決められた時間と量で摂取することができます	食事を摂取することはできません 水分(水・お茶のみ)は決められた時間と量で摂取することができます
排泄	制限はありません	
清潔	シャワー浴ができます(必要な場合はお手伝いをします)	タオルで体を拭くことができます(必要な場合はお手伝いをします)
活動 (安静度)	制限はありません	病棟内でお過ごしください 手術室へ歩いて移動します(状態によっては車椅子やベッドで移動します)
説明 (指導)	入院生活や手術について説明します 義歯・補聴器があるかを確認します ネームバンドを装着します 手術室看護師の訪問があります 麻酔科医師から麻酔について説明があります(全身麻酔の場合)	手術開始予定時刻は 時 分です 手術着に着替え、弾性ストッキング(血栓を予防する靴下)を着用します 装身具(眼鏡・時計・義歯・指輪等)を外します ご家族の方は一度帰宅し、手術が終わる頃病院へ戻ってきてください 戻ってきたらナースステーションへ声をかけてください
その他	※手術中は必ず、すぐに電話を受けられるようにしてください	



※転倒転落・せん妄リスクが生じる場合は、適宜観察し対応させていただきます。 上記のとおり説明を受けました 年 月 日

※上記の内容は状態によって変更する場合があります。変更の際は、その都度お伝えします。

注1) 病名等は、現時点で考えられるものであり、今後検査等を進めていくにたがって変わり得るものである。 説明を受けた人: 続柄

注2) 入院期間については、現時点で予想されるものである。 (本人・家族) ()

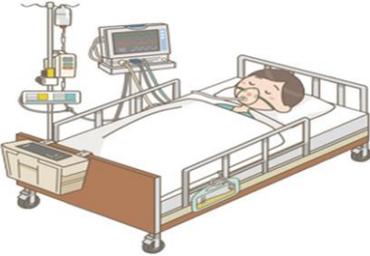
前立腺全摘除術パス 入院診療計画書

URY104

患者氏名

(性別)

患者ID

月日	手術後	術後1日目
	/	/
患者目標	手術後合併症を起こさない	
治療処置注射(内服)	自動血圧計、心電図モニターを翌朝まで装着します 酸素を開始し、足にはフットポンプを装着します (装着時間は状態によって変わります) 片方の鼻・傷口付近・背中に管が入り点滴をした状態で帰室します (続けて点滴をします)	医師の指示により、鼻から入っている管を抜きます 手術後3日目まで点滴をします (状態によって変更があります)
検査	帰室後、血液検査をします (手術室で採る場合もあります)	必要時、血液検査をします
食事	食事や水分を摂取することができません	検査の結果を確認し、水分(水・お茶のみ)から開始となります (状態によって変更があります)
排泄	尿の管が入っています 排便はベッド上で便器を使用します	歩行開始後はトイレで排便できます
清潔	翌朝まで手術着のまま観察していきます	タオルで体を拭くことができます (必要な場合はお手伝いをします)
活動(安静度)	翌朝まではベッド上で安静となります 	病棟内でお過ごしください 朝から歩行できます(初回歩行時は、看護師が付き添いをします) 初回歩行後は、ふらつきなどがなければ1人で歩けます 歩行後、弾性ストッキング(血栓を予防する靴下)を脱ぎます (状態によって変更があります)
説明(指導)	医師の診察があります 尿の管の違和感や痛みが強くなる場合や気分が悪くなったり、身体に異常を感じた時はすぐにお知らせください	手術後数日間、血尿が出る場合があります 看護師が観察し適切な対応をします
その他		

※転倒転落・せん妄リスクが生じる場合は、適宜観察し対応させていただきます。

※上記の内容は状態によって変更する場合があります。変更の際は、その都度お伝えします。

注1) 病名等は、現時点で考えられるものであり、今後検査等を進めていくにしたがって変わり得るものである。

注2) 入院期間については、現時点で予想されるものである。

前立腺全摘除術パス 入院診療計画書

URY104

患者氏名 (性別) 患者ID

月日	術後2～12日目		退院日
	/ ~ /		/
患者目標	術後合併症を起こさない		
治療 処置 注射 (内服)	手術後3日目頃に背中に入っている管を抜きます 手術後3～4日目頃に傷口付近に入っている管を抜きます 手術後7日目に一部を抜鉤します ※1 手術後8日目に残りを抜鉤します 手術後8日目に膀胱造影検査を行い、尿の管を抜きます (状態によって変更があります)	退院時に処方がある場合は、薬剤師からお渡します (不在の場合には看護師からお渡する場合があります) ネームバンドを外します 体温計を回収します	
検査	必要時、血液検査をします	退院後の過ごし方、次回外来について説明をします	
食事	2～4日目に腹部状態を確認し、食事が開始となります (状態によって変更があります)	次回の外来予約票と診察券をお渡します	
排泄	尿の管が抜けたら排尿もトイレを使用します 尿の管が抜けた後は、排尿時間や量、尿漏れなどの排尿状況を指定の用紙に記入します	会計担当者が、お部屋へ伺います(開院日) 会計の説明を聞いてからの退院となります (状況によっては、多少お待ち頂く場合がございます)	
清潔	抜鉤後よりシャワー浴ができます		
活動 (安静度)	制限はありません		
説明 (指導)	尿の管を抜いた後、排尿時の痛みや血尿が出ることがありますが徐々に落ち着いてきます(状態に応じて必要な対応をします) ※1 抜鉤とは・・・手術の際の傷口を医療用のホッチキスで閉じた場合に、手術後にその針を抜き去ることです		
その他			

※転倒転落・せん妄リスクが生じる場合は、適宜観察し対応させていただきます。

※上記の内容は状態によって変更する場合があります。変更の際は、その都度お伝えします。

注1) 病名等は、現時点で考えられるものであり、今後検査等を進めていくにしたがって変わり得るものである。

注2) 入院期間については、現時点で予想されるものである。